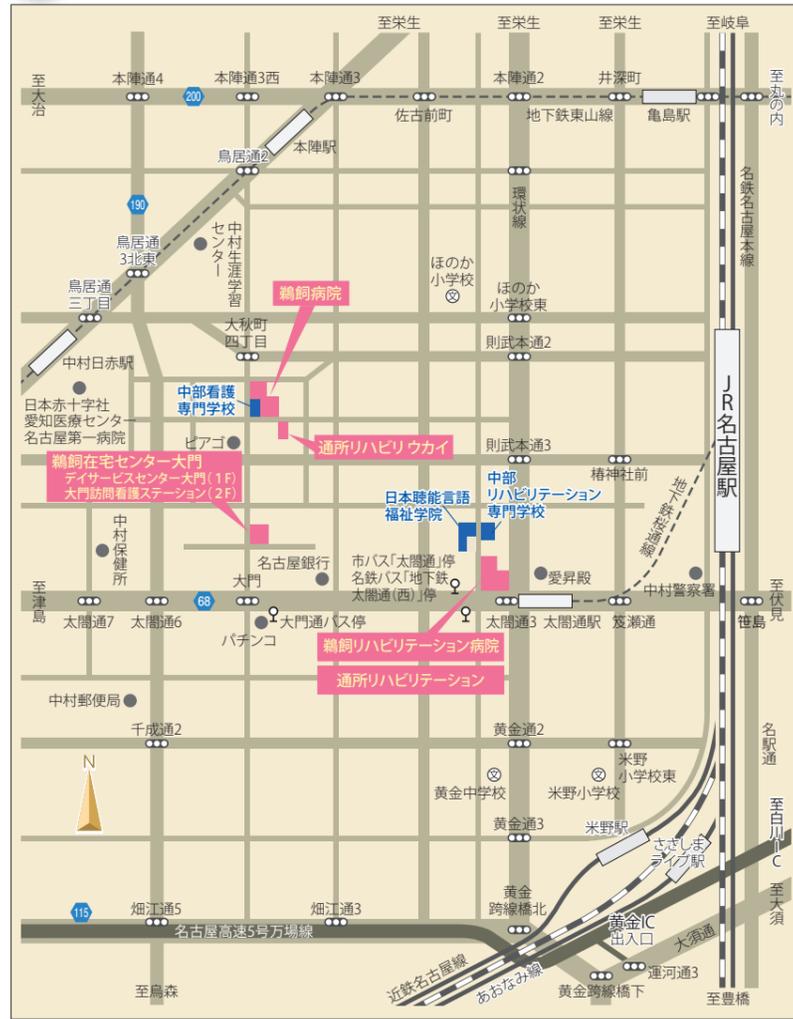


ご案内図



交通アクセスのご案内

- 地下鉄/桜通線「太閤通」1番出口より……………徒歩約1分
- 市バス「地下鉄太閤通」・名鉄バス「地下鉄太閤通(西)」下車……………徒歩約1分
- JR名古屋駅太閤通口より……………車で約5分
- 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ……………車で約10分

日本医療機能評価機構
認定第LL31号

日本医療機能評価機構
認定第LL31号-R

主たる機能
リハビリテーション病院
☆☆☆☆(認定5回目)

高度・専門機能
リハビリテーション
(回復期)

医療機能評価認定病院です
(財)日本医療機能評価機構により、医療機関(療養)・リハビリテーション機能(回復期)としての基準を達成しているとの認定をいただきました。

URH 医療法人 珪山会
鵜飼リハビリテーション病院

〒453-0811 名古屋市中村区太閤通4-1
TEL 052-461-3132 FAX 052-461-3231
Eメール mail@kzan.jp ホームページ <http://www.ukaireha.kzan.jp/>

時代のニーズに応える
珪山会グループ

鵜飼 病院
TEL 052-461-3131
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

鵜飼リハビリテーション病院
TEL 052-461-3132
FAX 052-461-3231
名古屋市中村区太閤通4-1

通所リハビリテーション
TEL 052-461-3237
FAX 052-461-3238
名古屋市中村区太閤通4-1

通所リハビリウカイ
TEL 052-461-9195
FAX 052-461-3107
名古屋市中村区寿町6-1

**デイサービスセンター大門
(鵜飼在宅センター大門1階)**
TEL 052-461-3204
FAX 052-461-3214
名古屋市中村区賑町26

**大門訪問看護ステーション
(鵜飼在宅センター大門2階)**
TEL 052-471-2533
FAX 052-485-9702
名古屋市中村区賑町26

中部リハビリテーション専門学校
TEL 052-461-1677
FAX 052-471-2333
名古屋市中村区若宮町2-2
<http://www.chureha.kzan.jp/>

中部看護専門学校
TEL 052-461-3133
FAX 052-483-0873
名古屋市中村区寿町29
<http://kango.kzan.jp/>

日本聴能言語福祉学院
TEL 052-482-8788
FAX 052-471-8703
名古屋市中村区若宮町2-14
<http://ncg.kzan.jp/>

鵜飼リハビリテーション病院
ハートフル情報誌
ReHappy!
Vol.84

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌

ReHappy!

リハッピー

Vol.84

発行人/鵜飼泰光
発行/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
名古屋市中村区太閤通4-1
<http://www.ukaireha.kzan.jp/>
編集/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
編集グループ
編集協力/プロジェクトリンク事務局
発行/令和5年7月1日

〈特集〉

認知機能の障害を 多職種連携でサポート。



認知機能の障害を多職種連携でサポート。

病院機能評価の審査で、とくに高評価を得た項目について掘り下げるシリーズ。第2回目は、S評価を得た「言語聴覚療法を確実・安全に実施している」という項目にスポットをあてる。高次脳機能障害のある患者さんのケーススタディを通して、言語聴覚士たちがどのように多職種と連携し、患者さんの自立をサポートしているのかを追った。



3階病棟 原 優里(言語聴覚士)

左側を認識できない高次脳機能障害を抱えて。

2022年秋、言語聴覚士の原 優里は退院して間もない患者さん(Nさん・60代男性)のお宅に電話をかけた。「退院されて1週間、ご主人の体調はいかがですか。何かお困りのことはないですか」。その問いかけに、奥さんは弾んだ声で返した。「調子いいですよ。今日も2人で

近所を散歩しました。それに最近、主人の念願だった庭仕事も、10分くらいなら疲れずできるようになったんです」。その言葉を聞いて、原は思わず頬を緩ませた。「家に帰って、奥様と散歩や、庭仕事がいい」というのは、Nさんの一番の希望だったからだ。

Nさんと原が出会ったのは、2022年初夏のこと。脳梗塞を発症し、急性期病院で治療を受けた後、鶴飼リハビリテーション病院に転院してきた。そのときの様子は

COLUMN 病院機能評価で、S評価(秀でている)を獲得。「言語聴覚療法を確実・安全に実施している」

病院機能評価は、病院の運営管理と医療について公益財団法人日本医療機能評価機構が中立的、科学的・専門的な見地から評価を行い、より良い病院づくりを支援する仕組みである。鶴飼リハビリテーション病院は2002年より認定を受けており、5回目の更新が認定された(認定日:2022年2月4日)。病院機能評価は4つの評価対象領域から構成される各項目について評価されるが、当院は5つのS評価(秀でている)を取得。その一つ、「言語聴覚療法を確実・安全に実施している」という項目では、「言語聴覚

療法の実践、患者支援は極めて秀でている」と判定された。とくに、言語聴覚士がチーム医療のリーダーシップを発揮し、他の療法士、看護師などとともに、入院時から全患者に対して「CBA(認知関連行動アセスメント)」を実施する体制を作ったことなど、いくつかの活動が評価された。



どうだったのだろう。「左片麻痺は軽度だったのですが、全般的に認知能力がかなり低下していて、日中はほぼ寝ているような状態でした。とくに、左側の空間が認識できない(左半側空間無視)という障害があったので、話すときも顔が右側を向いてしまい、目を合わせるのが難しく、コミュニケーションを取るのが難しかったですね」と原は振り返る。ご家族の希望を踏まえ、原を含む担当チームがカンファレンスで設定したゴールは、自宅への退院。自宅内での自立した生活と屋外での見守り歩行をめざすことになった。「希望されている奥様との散歩や、庭仕事ができるようになったらいいなと考えました」(原)。



認識できないため、病室から食堂への移動が困難だった。まっすぐ歩けば食堂にたどり着けるのに、手前の角を右側へ進んでしまうため、声掛け等の介助量が多い状態だった。この問題に対処するため、原は病室から食堂までのルートを決めると同時に、Nさんが座る場所を(パントリーの横)と決め、目印を声出し指差し確認する方法を提案した。セラピスト、看護師、介護士などが協力し、この方法を実施することで、Nさんは食堂の場所を覚え、自分で席まで移動することができるようになり介助量が軽減された。「Nさんの場合、保たれていた能力である記憶を活用したり、病識を獲得することで注意障害や左半側空間無視を代替することができる」とわかったことは、大きな成果でした」(原)。この成果を多職種で共有し、机上課題や会話に重点を置くようにした。

声かけの方法を多職種に伝え、共有する。

言語聴覚士、理学療法士、作業療法士による、Nさんのリハビリテーションがスタートした。短期目標は、日中はベッドから起きて耐久性を獲得すること、車椅子ではなく歩行で移動できるようにすることだった。下肢の麻痺は軽度であったため、歩行への移行において最も問題となるのは、左半側空間無視と認知機能の低下だと考えられた。そのため、原は言語聴覚士の立場から、保たれてい



る認知機能を活用することで低下した機能を補い、介助量を軽減する方法を目指した。また、病識(自分は病気であるという意識)を高め、危険な場面に気づけるようにすることを目標に介入した。Nさんの認知面における大きな課題は、注意障害と左半側空間無視である。特に左側を

「最初は耐久性を向上させるためにやさしい課題を多くこなす方法を採用し、間違いを指摘せずに介入しました。Nさんが無理をするとリハビリに対する拒否感が生じる可能性があったためです。ある程度認知機能が改善した後は、〈今これ間違えましたね〉〈左側の見落としが多いですね〉とその場で指摘するように指導方法を変えました。安全に生活するためには、Nさんに病前の自分との違いに気づいてもらうことが大切だったからです」(原)。認知機能の改善に応じた指摘方法は、他のリハビリや日常生活でも同様のことが言える。原はNさんの認知の状態を見極め、多職種と綿密な情報共有をするようにした。

自分の障害を理解すると同時に自信を失い、やる気も低下。

原との会話を重ねるにつれ、「うっかりミスが多いな、自分は左側が見えないんだな」という発言がNさんから

聞かれるようになった。Nさんはようやく自分の障害を認めるようになったのだ。まさに望み通りの回復だったが、同時にNさんは精神的に大きな壁にぶつかった。

「自分の病気を自覚できるようになると、以前の自分と変わってしまった自分を自覚するがゆえに、自己肯定感が下がってしまう方が多いです。Nさんも同様で、**くもう**



疲れた、もうダメだ」と弱音を吐くようになりました」。原は励ますことも大事だが、自信をつけてもらうことが大事だと考え、難題だったトイレでの排泄に重点的に取り組んだ。手順が混乱してトイレ動作がうまくいかないNさんのために、トイレ動作の順序を言葉に出してもらってから実践すること、動作の直前に「ズボンをはくときの注意点は？」などの質問をして、行動を言語化することによって、失敗なく動作できるよう導いていったのである。これらの声かけや手順を統一し、スタッフみんなで取り組むことによって、Nさんの失敗は目に見えて減っていった。「人に迷惑をかけたくない」という気持ちが人一倍強かったNさんにとって、大きな自信に繋がったことはいうまでもない。

こうしてNさんは困難を乗り越え、約3カ月半のリハビリテーションを終え、退院の日を迎えた。自宅での食事、トイレ、入浴は自分でできるようになり、さらに屋外での移動も自立できるほど改善し、Nさんご家族は晴れやかな笑顔とともに、病院を後にした。

言語聴覚士の専門スキルを歩行や生活動作に活かしていく。

Nさんの事例と病院機能評価を振り返り、言語聴覚部門主任・小林瑞穂（言語聴覚士）は次のように語る。「病院機能評価では、

言語聴覚士が専門とする認知能力の把握というスキルを抱え込むのではなく、他職種のリハビリテーションやケアに活かしているところが高く評価されました。今回のケースはまさにその好例だと思います。高次脳機能障害のある患者さんの関わり方、声のかけ方を他職種に発信して実践することで、移動や作業動作の向上などに貢献できたと思います」。言語聴覚士という、個室で患者と1対1の会話をして認知機能の改善に努める姿が思い浮かぶ。だが、実際は言語聴覚士の役割はもっと広いのだ。

原もそのことを強く認識している。「Nさんのトレーニングを始めた当初は、言語聴覚士が、しかも若手の自分が、歩行や生活動作にどこまで踏み込んでいいか躊躇しました。でも、回復期のリハビリテーションには患者さんの今後の人生がかかっているわけですから、遠慮している場合ではありません。保身に走るな。そう自分に言い聞かせ、他職種の先輩方にも有効な声かけや指差し確認の方法を統一して実施するよう、どんどん発信しました。幸い、当院には経験豊富な先輩方がたくさんいて、常に前向きな姿勢で支えてくれます。これからも、当院の理念である〈患者さん第一主義〉を意識しながら、泥くさいやり方で、自分にできることを精一杯やっていきたいと思えます」。原はそう締めくくって、微笑んだ。



言語聴覚部門主任 小林瑞穂（言語聴覚士）



For the Best Rehabilitation

Topic 1

言語聴覚士から他職種へ発信する重要性。

今回の特集で取り上げた言語聴覚士の活動、その他の専門職はどのように評価しているのだろうか。理学療法士の牧 芳昭（理学療法部門主任）に話を聞いた。「私たちにとって、言語聴覚士のアドバイスはものすごく大きいですね。たとえば、患者さんのなかには徐々にトレーニング



のやる気を失っていく方もいらっしゃいます。そんなとき、どのように声をかければいいのか、また、失語症の方との会話を引き出すポイントなどを教えてもらっています。私たちはどうしても運動機能に集中しがちですから、言葉からの有効なアプローチ法を知ることで、患者さんの思いを理解できています」。

さらに牧は、高次脳機能障害に対するチームアプローチとして、CBA（認知関連行動アセスメント）の活用にも言及する。CBAは、患者さんの意識や感情などを評価して点数化し、「最重度・重度・中等度・軽度・良好」に分類。認知機能の重症度に応じた関わり方をスタッフ全員で共有するものだ。「失語症の方の認知機能の状態は言語聴覚士でないとわかりませんが、CBAの重症度からどういう課題を抱えた患者さんであるかを理解することができます。さらに言語聴覚士のアドバイスも組み合わせながら、それぞれの患者さんに合った声かけとリハビリテーションに取り組むよう努めています」(牧)。

Topic 2

〈患者さんの思い支援プロジェクト〉における言語聴覚士の役割。

本誌・前号でも紹介したように、鶴飼リハビリテーション病院では〈患者さんの思い支援プロジェクト〉を立ち上げ、病院全体で患者さんの思いに寄り添う支援に力を注いでいる。この活動においても、言語聴覚士が果たす役割は大きい。「患者さんの思いを聞き出す部分は、まさに私たちの専門分野です。たとえば、認知機能が重い方でも聞き取りの仕方を駆使したり、ご家族から情報を得ることで、理解を深めることができます」と話すのは、言語聴覚士の伊藤 梓（リハビリテーション部主任）である。

また、〈患者さんの思い支援プロジェクト〉では、職種を問わず会話技術を磨くために、勉強会も行っている。「患者さんの思いを実現するには、大きく分けて3つの段階があります。まず思いを聞く前の情報収集、次に実際に思いを聞き出すこと、最後に思いをプログラムに活かすことです。2021



年からこのステップに沿って皆で学んでいます。認知の重症度に応じた聞き取り方など言語聴覚士ならではの視点で専門的なスキルを伝えることで、患者さんをもっと深く掘り下げようという意識が院内全体に広がっていくよう働きかけています」と伊藤は話す。

珪山会
グループからの
お知らせ

Support Party!

鵜飼病院

地域に密着した病院として、患者さん・ご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。



施設概要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科

病床数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）

外来受付時間

月～金曜日 9:00～12:00 / 15:30～18:00

土曜日 9:00～12:00

休診日 日・祝

※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

鵜飼リハビリテーション病院

■通所リハビリテーション（1～2時間）

利用者さんの状態に合わせ、専門スタッフがリハビリや運動を実施します。



介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせて、個別リハビリ（20～40分）や機械を使っの運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅を訪問しています。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

施設概要

利用者さんの状態に合わせ、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月・木・火・金・水・土（祝祭日を含む）

ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00
午後 13:00～14:30 / 14:30～16:00

サービス内容

- 筋力増強訓練や関節運動など
- 食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
- 住宅環境の整備
- ホームプログラムの指導 など

※食事・入浴・送迎はありません。

通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。



日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法の低周波やホットパック等を行います。

施設概要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:30
午後 13:30～17:00

サービス内容

○3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション

○健康状態の確認（メディカルチェック）など

※食事・入浴サービスはありません。
※3～4時間型は送迎があります。

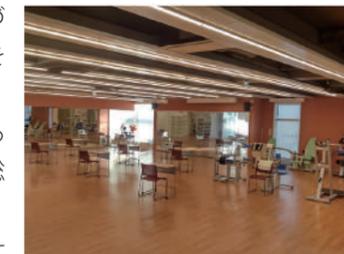
デイサービスセンター大門（鵜飼在宅センター大門1階）

今の生活を末永く維持するための効果的な予防サービスを提供します。

健康と要介護状態の中間に位置づけられるフレイル（虚弱）状態の改善をめざす専門のトレーニング施設です。

介護保険に加え、自治体が運営する介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）の方が対象となります。

当センターでは、サービス利用にあたり必要な介護保険や総合事業への申請の援助を行います。フレイルの改善したい症状に応じたプログラムをご提案するだけでなく、主体的な健康づくりの習慣づくりに向けた健康講座なども行います。また、PT・OTが常駐して個々の能力や疾病に合わせてアドバイスをしています。



施設概要

健康維持・介護予防をはかりたい方を対象に1～3時間程度の集団プログラムをご提供します。

対象：要介護・要支援認定の方、名古屋市の総合事業対象の方

ご利用日：月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:10
午後 13:00～16:10

サービス内容

○介護保険総合事業申請のお手伝い

○集団トレーニングメニュー

- ・基礎体力づくり
- ・歩行支援
- ・コグニサイズ
- ・シニアヨガ
- ・音楽療法 など

※食事・入浴サービスはありません。

大門訪問看護ステーション（鵜飼在宅センター大門2階）

短期間の利用も可能。退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろうか」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフからの情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週1～2回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。



施設概要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日 9:00～18:00（祝祭日、年末年始を除く）

サービス提供地域：中村区・西区（一部）・中川区（一部）

サービス内容

○健康状態・病状観察

○日常生活の支援

○医療処置・カテーテル管理支援

○在宅リハビリテーション

○看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談 など

※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。
※看護師の24時間対応。